Themis
テ　ミ　ス

岡義博法律事務所報 第3号
高松市丸の内10番地１大和生命ビル４階
ＴＥＬ　(0878) 21－１３００
ＦＡＸ　(0878) 21－１８３３

世界新記録 ～人類は挑戦する

所　長　弁護士　岡　義博

今年はオリンピック・イヤーでした。しかし、記録的には世界新記録はあまり多くでなかったようです。

世界新記録といえば、人類の記録はどこまで伸びるのだろうと常々不思議に感じています。例えば，男子 100メートルの記録は、カール・ルイスの９秒86（記憶で書いているので間違っていたらゴメンナサイ。以下同じ）だが、何十年か前には、 100メートル10秒が人類の壁だといわれていました。ところが、時代と共に10秒の壁は破られました。棒高跳びもそうです。かっては、６メートルは夢の話だったでしょうが、現在ではブブカが６メートル12センチを飛んでいます。

このように考えると世界記録はどこまで伸びるのでしょうか。100メートルを１秒や２秒で走ることはできないでしょう。では、５秒ならどうか、７秒ならどうかと考えてくると興味深いものがあります。棒高跳びもそうです。いくら長いポールを作っても20メートルは跳べないでしょう。しかし、10メートルならどうか。大変腕力が強く、走るスピードの速い選手が現われれば10メートルは跳ぶようになるかもしれません。これはポールという器具を使うからであり、器具の助けによって記録が大幅に伸びる可能性があるということでしょう。重量挙げについても考えたことがあります。最も重いクラスで何キロ持ち上げるか見当もつきませんが、200～300キロといったところでしょうか。そうすると、いくら力持ちが現われても１トンのバーベルを持ち上げることは無理でしょう。 100キロ上乗せするのが限界でしょうか。

このように考えると、スポーツ選手は大したものです。多くの人が、何十年という歳月を費やして 0.1秒、１センチ、１キロと記録を伸ばしてゆくわけです。敬意を表します。

ところで、スポーツ以外の分野でも人類の発展に寄与する発明、発見等をしている人はたくさんいます。例えば、ノーベル賞に至る過程には、スポーツと同じく、新発明、新発見に届かない戦いが多くあったと思います。人類は挑戦の歴史ということでしょうか。

法の女神・テミス

この像は、ギリシャ神話の「法の女神」テ　ミ　ス（Themis …ギリシャ語で、「掟」「習慣」「法」「正義」を意味します）を形どったものです。

右手に掲げるはかりは、公平を象徴するとともに、悪の重さをはかり、剣は力による貫徹を象徴し、目隠しは無私をあらわすものといわれています。

身近な法律シリーズ(3)　相続①

今回と次回は相続について考えてゆきます。

相続とはもちろん、ある人（被相続人）の死亡によって、一定の身分関係にある人が、財産を承継することです。一定の身分関係にある人とは、具体的に言うと妻や子などです。子供が既に死亡していて孫がいる場合は孫が相続します（代襲相続）。子供も孫もいない場合は、妻と親が相続します。親もいない場合は妻と兄弟姉妹が相続します。つまり、妻は常に相続権があることになります。血のつながりのある者は子（孫）→親→兄弟姉妹の順になります。

次に、相続分ですが、妻と子が相続する場合（孫が代襲する場合も同じ）は妻が½、子供は何人いても全員で½となります。妻と親が相続する場合は妻が⅔、親が⅓の相続分です。また、妻と兄弟姉妹が相続する場合は妻が¾、兄弟姉妹が¼です。

このことは子供が養子であっても同様です。養子は実子と全く同じに扱われるわけです。

また、子供や親や兄弟姉妹が複数人いるときは、その中では各自の相続分は等しいのが原則です。但し、婚外子は婚内子の½の相続分しかないとされており、また、兄弟姉妹については、父母の一方だけが同じである兄弟姉妹は双方が同じ兄弟姉妹の½しか相続分がないとされています。

相続分は以上の通りですが、遺産分割の具体的な話をする場合には、生前に被相続人から贈与を受けていたり、遺贈を受けた者があれば、その分は差し引いて、残った遺産について相続分を決めることになります。これを特別受益といいます。

また、被相続人の事業につき労務の提供した等、財産の維持・増加に特別の寄与をした相続人がある場合は、それを寄与分として考慮することもできます。

相続について、プラスの財産が多い場合はそのまま相続すれば良いわけですが、負債が多い場合もあります。このような場合には相続放棄という方法があります。これは相続があったことを知ったときから3カ月以内に家庭裁判所に、申述する方法でします。

また、プラスが多いのかマイナスが多いのか不明の場合には、相続財産の限度で債務を負担する限定承認という方法もあります（次号は遺言について考えます）。

事務所不思議発見（数字）

事務局　T・I

皆さんは数字の「15」を漢字で書くならどのように書きますか？

裁判所等への提出書類に書く数字は縦書きの場合、例えば15→一五、25→二五と書きます。私はこの仕事をするまで15→十五、25→二十五としか書いたことがなかったので最初はよく間違えていました。今では反対に「十五」とはすぐに書けなくなってしまいました。

ここで数字に関するエピソードを一つ。

私が自転車の盗難に遭い警察署に届け出た時のことです。書類にいつも書いている通りに数字を記入したところ、お巡りさんに「前にもなんかしたことあるんな」と言われました。警察でも同じ数字の書き方をするので、違反などして初めて始末書を書く場合、警察の方で日付け等の数字の書き方も教えるそうです。それが教えていないにもかかわらず、ササッと記入してしまったため、前にも警察にお世話になったことがあるのかなと思ったそうです。

顔で判断してはいけないのですが、私の顔は怖くありませんし、何かしでかしそうなタイプでもありません。警察署で「なんかしたんな」と問われるような顔はしていないつもりです。ちょっと数字の話とはそれましたが念のため。

それでも、もし「ほんまなー？」と思われましたら事務所まで見に来て下さい。お待ちしています。

外部の方からの投稿です

高松ウォッチング

事務局　E・O

「所変われば品変わる」という諺がありますが、その土地土地で食習慣も大いに違うように思います。

私が高松に来て初めて出会った食物に、てっぱい、豆パンや筍のテンプラ等がありますが、何といってもベスト１はあの雑煮。

“雑煮”というとすまし汁にお餅という私の既成概念を大いに打ち破ってくれました。白い甘みそに「あんこのお餅」。これにはあぜん。はっきり言いましょう。私はダメです。

わが家の御主人様はというとみその中にあんをドロドロにとかし、おいしそうにパクリ。

私は嫁にくるとき、祖父に「土地ば愛し、家ば愛し、主人ば愛すっとぞ」と言われた身の上です。だから「この伝統を子孫に伝えねば！」と力んでいました。でも心配無し。

子供達は毎年このぞうにぜんざいをおいしそうに食べます。「お正月とちゃうかっても、いつでも食べたいのー」と言いながら。

オーストラリアの新婚さん

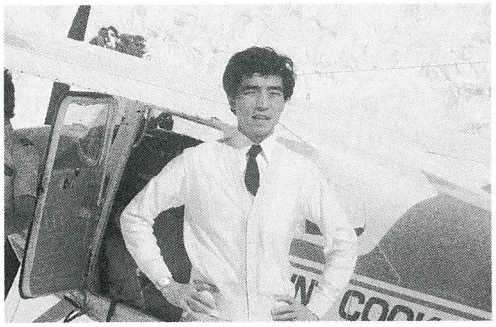
オーストラリア・ニュージーランドへ旅したのはもう10年以上も前、新婚旅行のときである。ツアー旅行で、大部分が新婚さんであったが、単独参加の方も数人いた。このうちの何人かの人とは現在でも賀状等のやりとりがある。海外旅行をすると異国の地での同胞ということで格別同行者に親しみを感じ、その後もお付き合いが続くものである。

海外旅行というと、食事に不安を抱く人もいるが、私はわりと平気な方である。たいてい現地の食べ物を食べ、旅行中は日本食が欲しいと思うことはほとんどない。この時は初めての海外旅行であったが食べ物では困らなかった。肉も魚もなかなかけっこうなものでした。街角で買ったキイウイフルーツなどの果物がおいしかったのも記憶している。しかし外国の食事は量が多いのと食後にケーキが出てくるのには閉口する。体格の違いを痛感させられる次第である。

10年以上たった現在、オーストラリア・ニュージーランドの思い出というと、緑が多く、花がきれいであったということである。特にニュージーランドについてそのようなイメージが強い。こじんまりとした家にきれいな花の咲いた美しい庭というイメージである。老後はこのようなところで暮らすのも良いと思ったこともあるが、税金が高いという話を聞き、英語が十分話せないという事実にも目を向けると、たちまち、現実に引き戻される。外国で住んでいる人を見ると尊敬の念を抱くことになる。

ニュージーランドではクライスト・チャーチという所に泊まった。森の中にあるホテルで部屋が大層広かったのが記憶に残っている。森を抜けてクライスト・チャーチの街まで出かけたが、高層ビルもなく、街中がのんびりしている。人間も少ない。これでもニュージーランド第二の都市だという。外国の街は一般にのんびりした雰囲気のところが多い。日本では地方都市の高松でさえ、気ぜわしさが感じられる。その点、外国は雰囲気がのんびりして生活のリズムがゆっくりしているので大変好ましい。これが旅をする楽しさの一つである。日ごろのセカセカを忘れ、スローに行動すると、心にも落ち着きが戻ってくるのがよくわかる。

この時見物した中で印象に残っているのはマウント・クックである。マウント・クックに氷河があり、その氷河上にセスナ機で降り立ったが、その景色もさる事ながら、印象に残ったのはセスナ機の方である。4～6人乗りの小さなもので、時々墜落しているのではないかと思うほどよく揺れる。マウント・クックの氷河へ降り立つのはよほど幸運でないとできないと言われている。気象条件が悪く何度行ってもセスナ機が着陸できないで引き返す人もいるらしい。ところが、この時は快晴で飛行中も景色がよく見え、氷河上でも大変すばらしい景色を見ることができた。そこで我々は大変幸運ということらしい。しかしこのセスナ機が墜落せずに無事往復できたことの方がよほど幸運であると思わせるような飛行機であった。（Y・O）



氷河上にて

＊編集後記＊

この号が刊行されるころは秋風が吹き、気持ちの良い季節になっていると思います。混戦の続いたセ・リーグのペナントレースも決着がついていることでしょう。しかし、この原稿を書いている時点では夏が終わったとはいえ、残暑が続いています。タイガースは三強の中に残って頑張っています。優勝じゃ～